画図
百鬼夜行
前編
陽
中

# 画図百器徒然袋巻之下

面霊気

聖徳太子の時秦の川勝あまたの假面を製せしよしかく出るがごとくあるハ川勝のたくみの假面なればあらんと夢心におもひぬ

幣六（へいろく）

荒はてし社（やしろ）なれば
あしらはれたる幣も
神のたゝり出たりし
ぬさと変じまたかひぬ

雲外鏡
照魔鏡と云へるハ
もろ〳〵の怪しき物の
形をうつすよしなれバ
その影うつれるにやと
おもひしに動出るまゝに
かゞみの妖怪なりと夢の中におもひぬ

鈴彦姫
かくれし神を出し奉んとて
岩戸のまへにて神楽を
奏しけるに
天鈿女のいみじくも
まひし美人は
たりひぬ

# 古空穂（ふるうつぼ）

そのかみ玉モ前をいたぶらかす
那須野の原の野干（やかん）を
いる三浦の介上総介
古うつぼにやと夢の中に
おもひぬ

無垢行騰
赤沢山の露ときえし
河津の三郎が行騰ならんと
夢心に思ひぬ

猪口暮露（ちよくぼろん）

明皇（めいくわう）あるとき書を見給ふに御机（つくへ）のうへに小童（どう）ありて明皇を叱（しつ）したまへハ臣ハまうさ墨（ぼく）の精（せい）なりと奏（そう）して まへくもをあるよし叶怪（くわい）もその故ありし夏うちにおもひぬ

瀬戸大将
槊をよこたへて詩を賦せし
壽亭侯はや蜀江の

五徳猫

七とくの舞を
ふたつをわすれて
五徳の官者と
いひしためしも
あれバこの猫も
いかなることをか
わすれけんと夜の
中におもひぬ

鳴釜
白澤避怪図曰
飯甑作声鬼名
歛女有此怪則
呼鬼名其怪忽
自滅
夢のうちに
おもひぬ

山颪

豪猪といへる獣あり　山おろしといひて其身の毛おろしのごとし　妖怪も名とかたちの似たるゆへにかくいふならんと夢心におもひぬ

瓶長
よろづハ吉事の
たえまなしと云へば
酌ども尽ず飲ども
尽ぬめでたきことを
うけくみする瓶長
と夢のうちに
おもひぬ

こ京め
きちん

波のり
船は
おとの
よき

七十三翁
鳥山石燕豊房畫
挍合門人
子興
燕示
石調
天明四甲辰春
彫工井上新七
文化二乙丑年求板
江戸書林
前川六左衛門
本銀町三町目
前川弥兵衛